

# 大阪湾漁場環境速報

2022年 1月12日発行  
兵庫のり研究所

神戸地先と関西空港周辺において、スケルトネマが多く確認されています。窒素は、陸水等の影響が見られた神戸空港東部から湾奥・関西空港北部にかけて6  $\mu\text{g-at/L}$ 以上、それ以外の海域では、北部で概ね4  $\mu\text{g-at/L}$ 台、南部で概ね2~3  $\mu\text{g-at/L}$ 台でした。

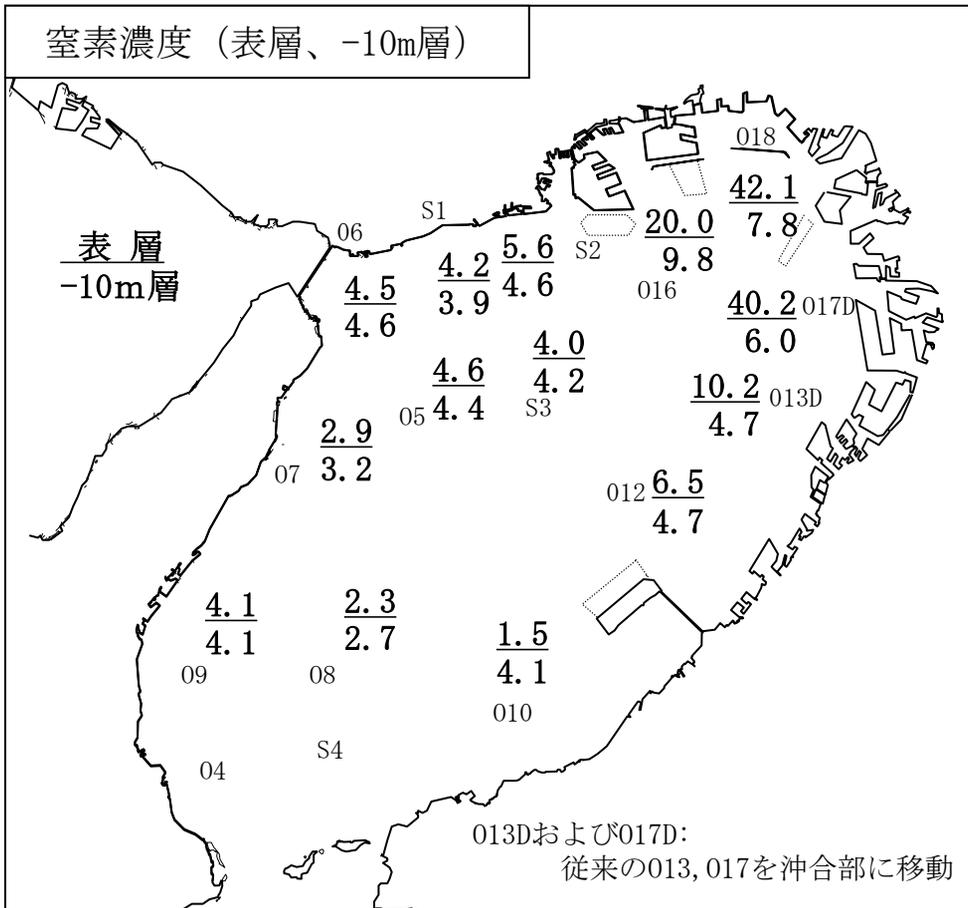
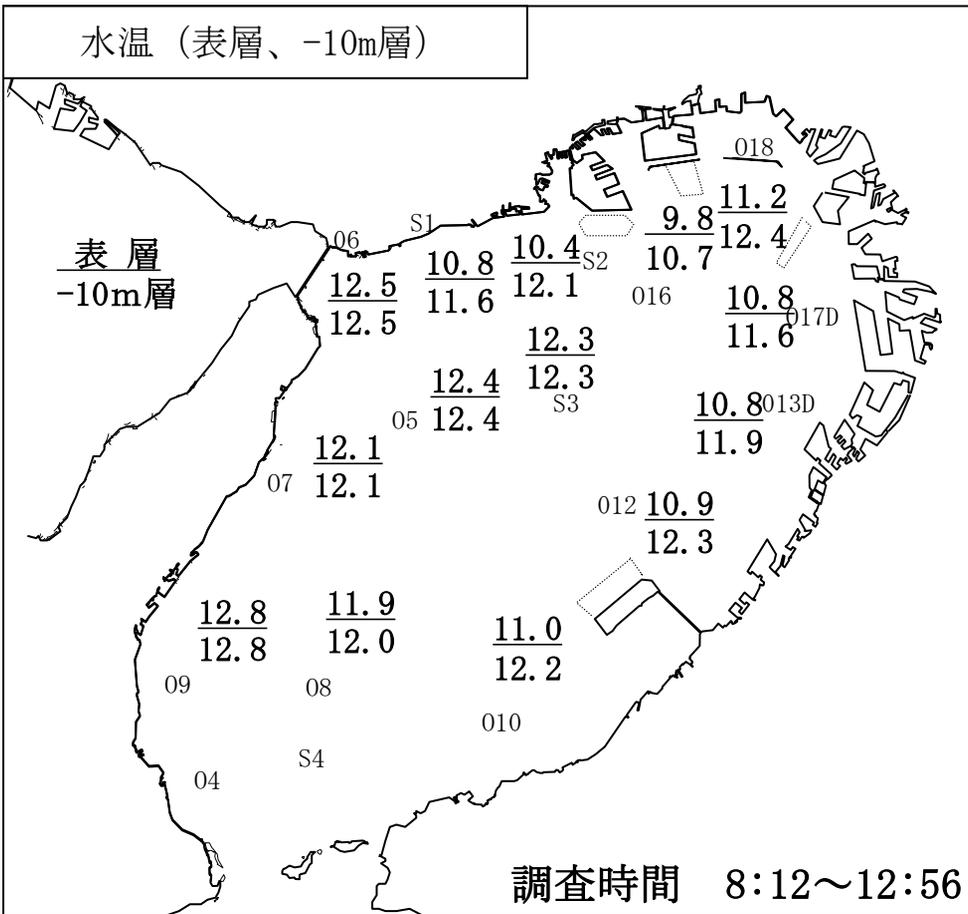
(水温) 表層は湾内9~12℃台で、平均11.5℃。平年比約0.8℃低い。-10m層は平均12.1℃(平年比-0.6℃)。

(塩分) 表層平均31.58psu(平年 31.66)。-10m層平均32.02psu(平年 32.05)。

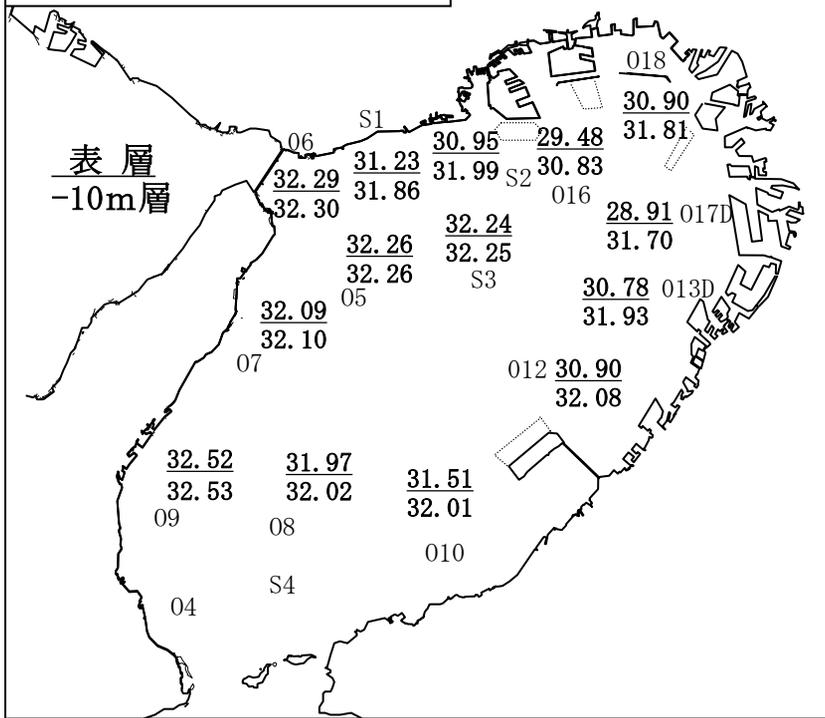
(栄養塩、珪藻他) 表層の窒素は平均5.5  $\mu\text{g-at/L}$ 、リンは平均0.33  $\mu\text{g-at/L}$ 。-10m層(平均)は、窒素4.6  $\mu\text{g-at/L}$ 、リン0.45  $\mu\text{g-at/L}$ 。表層では、須磨から湾奥・岸和田にかけて、陸水等の影響が強く見られ(水温及び塩分が低い)、窒素が高い値を示している。一方、神戸地先と関西空港周辺ではスケルトネマが発生しており、栄養塩(特にリンの値)が周辺の海域と比較して低下している。-10m層では、陸水の影響及び表層との攪拌が見られる地点を除き、概ね4  $\mu\text{g-at/L}$ 台の値であった。

上段(今回値)	2022年 1月11日調査
中段(昨年値)	2021年 1月12日調査
下段(平年値)	1月上旬

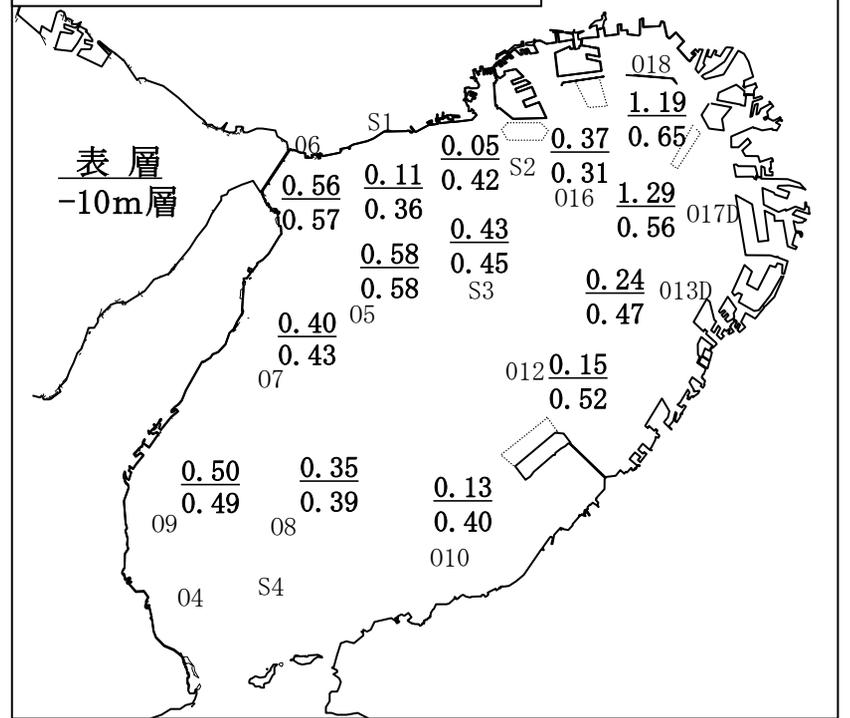
調査地点	水温(℃)	塩分(psu)	三態窒素( $\mu\text{g-at/L}$ )	磷酸( $\mu\text{g-at/L}$ )
04	13.8	32.71	6.3	0.52
	12.4	32.26	4.6	0.58
05	10.8	32.22	2.5	0.46
	12.6	31.86	5.4	0.52
06	12.5	32.29	4.5	0.56
	10.8	32.23	2.0	0.47
07	12.4	31.96	5.5	0.56
	12.1	32.09	2.9	0.40
08	11.9	32.49	2.9	0.47
	12.9	32.05	5.4	0.54
09	11.9	31.97	2.3	0.35
	12.4	32.87	2.8	0.37
10	13.0	32.09	5.2	0.48
	12.8	32.52	4.1	0.50
010	12.6	32.93	2.6	0.37
	13.2	32.32	5.1	0.50
012	11.0	31.51	1.5	0.13
	9.6	32.06	4.7	0.34
013D	12.1	31.80	5.5	0.43
	10.9	30.90	6.5	0.15
016	8.8	31.71	7.4	0.33
	11.5	31.10	8.6	0.40
017D	10.8	30.78	10.2	0.24
	8.9	29.91	34.3	0.61
018	11.7	30.69	12.6	0.47
	9.8	29.48	20.0	0.37
S1	7.1	26.09	50.5	1.28
	11.4	29.82	16.6	0.52
S2	10.8	28.91	40.2	1.29
	7.6	26.41	86.6	1.91
S3	11.4	28.85	29.1	0.82
	11.2	30.90	42.1	1.19
S4	7.8	25.38	64.8	1.83
	11.3	28.49	31.4	1.01
04	10.8	31.23	4.2	0.11
	10.5	32.11	2.7	0.45
05	12.1	31.39	7.8	0.47
	10.4	30.95	5.6	0.05
06	9.1	30.72	16.9	0.61
	11.5	30.78	10.2	0.45
07	12.3	32.24	4.0	0.43
	10.8	32.22	2.3	0.46
08	12.4	31.57	5.7	0.46
	12.8	32.16	6.3	0.52



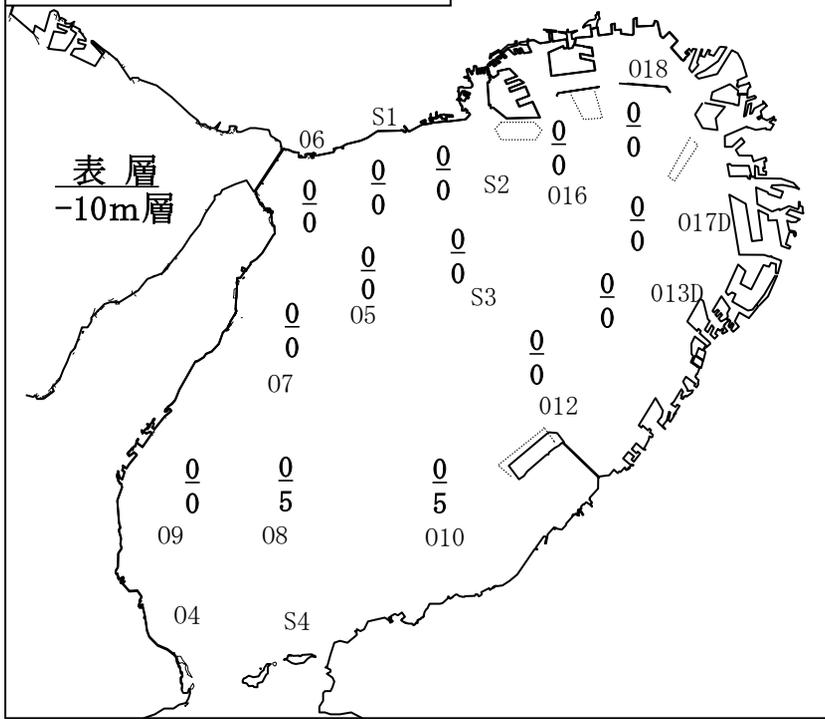
塩分 (表層、-10m層)



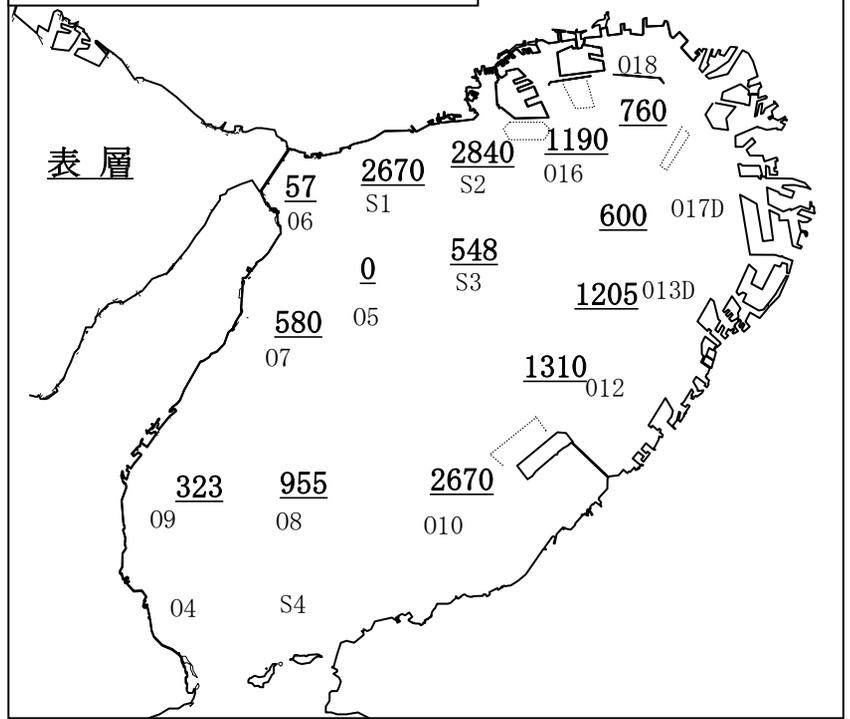
リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)



ユーカンピア (細胞/ml)

